

# 友好

ヨ-ハオ

北海道日中経済友好協会会報  
「友好」第36号  
令和3年5月26日発行

一般社団法人北海道日中経済友好協会  
札幌市東区北43条東1丁目6-10 明哲ビル  
TEL 011-299-1885 FAX 299-1886

## 社会が、暮らしが変わる。そこに生きる日中交流を。

北海道日中経済友好協会 会長 木村輝美

新型コロナウイルスによる影響を受けた私たちの社会は、すべての面で先の見えない閉塞感にさいなまれています。とりわけ経済活動への打撃は深刻で、一日も早い“日常”への回帰を祈るばかりです。

### 古い友人を忘れない

1年前は家庭も企業もマスクの確保に追われていましたが、そんなところに黒龍江省第2の都市のチチハル市役所から、マスク寄贈の申し出が寄せられました。その内容は、北海道庁へ2万枚、帯広市役所へ2万枚を贈呈したいので当協会に仲介の労を取ってほしいというもの。早速それぞれへ連絡すると、とても感激されて贈呈が決定。速やかに手続きを進めるために、成田空港での通関や国内移送は当協会の会員企業が担当することで、迅速な対応を行いました。

北海道庁へは、7月16日に当協会の下斗米副会長が訪れ、国際課長に直接マスクを引き渡すことができました。

チチハル市の中心産業は一次産業ということで、北海道との農業交流に期待をかけており、一昨年には副市長を団長とする視察団が道央を中心に農業機械・設備などの視察を行っています。

中国の人たちがよく口にする「一度知り合ったら、もう古い友人」という考え方が今回のマ



道庁に運び込まれる  
チチハルからのマスク

スク寄贈につながったもので、経済を通じた交流がこうした形で地域同士の交流へと広がることに、確かな手ごたえを感じております。

### アフターコロナに備えて

昨年度は当協会のほとんどの事業を自粛せざるを得なく、今年度も慎重な対応が求められています。

しかしながら当協会が長年にわたる中国との交流を通じて築いてきた人脈、そして様々な窓口を通じてもたらされる情報を得ることが、今の私たちに課せられた役割と認識しております。

人が動き、モノが動いて経済が成り立ちます。日中間の経済交流もしかりです。

両国の経済交流が以前のような姿に戻ることを願い、そしてその先を見据えて、会員の皆さまと力を尽くしていく所存であります。

## 札幌の鉄工所が中国人実習生を受け入れ

黒竜江省チチハル市から来た3人の実習生が、札幌で日本の先進技術を学ぶために奮闘しています。中国との様々な交流が停滞を余儀なくされる中で、前向きな企業の取り組みを紹介します。

### コロナ禍を乗り越えて

チチハル市からの実習生は、<sup>ジン グオリアン</sup>靳国良さん(48)、<sup>ジェンバオチェン</sup>甄宝成さん(44)、<sup>ジアン タオ</sup>蒋涛さん(38)の3人。新型コロナウイルスの感染防止対策により、来日後は成田空港そばのホテルで2週間の経過観察を経て北海道へ。北海道に到着後は千歳市にある外国人技能実習機構(OTIT)が認定する研修施設で1カ月間、日本で生活するうえの基礎知識や日本語の研修を受け、やっと札幌入りが実現しました。

こうして2月12日から受け入れ企業である東区の株竹原鉄工所での実習が始まりました。

新千歳空港で実習生を迎えた竹原慎雅社長(左から2人目)



竹原鉄工所と竹原慎雅社長



竹原会長は北海道日中経済友好協会へ入会する以前から訪中経験が豊富で、社長業を離れたのを機に本格的に受け入れの準備を始めました。

まずは中国における技術者育成の実態を知るために、当協会の仲介により、2019年6月にチチハル市を訪問。同市にある「中国一重技師学院」の視察を行いました。同学院は中国第一重機集団という企業が運営する“技術訓練学校”で、3年制の大学に準じるコースから短期の職業訓練コースなどに、年間数千人が入学する中国有数の技術者養成機関です。

この学院を視察した竹原会長は、中国の技術レベルや送り出しに関する中国側の態勢を総合的に判断し、実習生受け入れの道筋を付けられました。

### 人材育成で中国を支援

竹原鉄工所は昭和43年創業で建築鉄骨の製作・施工を中心とする道内有数の企業です。

今回の実習生の受け入れは、同社の竹原巖会長が社長時代から温めていた構想で、昨今の“人手不足”を外国人労働者で補うというのではなく、純粹に技術交流、人材育成で中国を支援し、実習生には日中の懸け橋となってビジネスに結び付けてほしいという考えが発端となっています。

### 会話には翻訳機が活躍

実習が始まって3カ月が過ぎた現在、3人は主として部品加工で金属の部材に穴を開けたり、切ったり、削ったりなど、それぞれの担当

に分かれて、技術の習得に汗を流しています。

日本語はまだ不自由な点が多いことから、会社では実習生と周囲の社員に翻訳機を持たせ、意思疎通も上手くこなせているとのこと。すでに社員のみなさんとも打ち解け、蔣涛さんは指導担当者を「師匠」と呼び和気あいあいとした雰囲気を実習が行われています。

### 社を挙げて周到な受け入れ態勢を

受け入れに当たって社長の竹原慎雅さんは、自ら現地で面接を行って3人を選考しました。また、社員全員に対して今回の実習を行う意義、

靳 国良さん



甄 宝成さん

蔣 涛さん



目的などを丁寧に説明して理解を求めたそうです。さらには受け入れマニュアルや実習プログラムを作成し、社を挙げてこの取り組みを推進し、日中双方にとって実りある交流となるよう、しっかりとした態勢で3人を迎え入れました。

実習期間は3年ですが5年まで延長が可能。この間に資格取得も計画していて、まずは鉄工技能士基礎級の試験を目指して実習を行うとのこと。実習では日本の鉄工業界が求める高い技術スペックの体得はもとより、日本人の物づくりに対する精神を学んでほしいと、竹原社長は3人への期待を語ります。

3人は会社からほど近い場所の3LDKのアパートで共同生活し、自転車通勤の毎日です。さすが中国人とあって料理づくりはお手の物。竹原社長も、コロナが終息したら社員全員が参加する餃子パーティーを楽しみにしているとのこと。

### 取材を終えて…。

実習生の3人は昨年来日するはずが、新型コロナウイルスが発生。中国で1年間の待機状態が続いたことから、まさに待ちに待った来日となりました。

兄貴格の靳さん、実直そうな甄さん、一番若く191センチと長身の蔣さん。それぞれからは、実習にかける真剣な思いが伝わってきます。とは言え家族から離れての生活に寂しさは隠せません。ウィーチャット（中国版LINE）を使って、毎日、連絡を取り合うのが楽しみと話してくれました。

敢えてこの時期に受け入れを行った竹原社長の英断と、きめ細やかな対応を行っている竹原鉄工所全社員の思いが、3人の背中をしっかりと支えているようです。

熱烈  
歓迎

## 新中国総領事が着任

駐札幌中国総領事は、孫振勇氏に替わって、新たに劉亜明氏が昨年11月に着任されました。劉亜明総領事の前職は長崎総領事で、歴代の駐札幌中国総領事としては2人目の女性の総領事です。

劉亜明総領事から当協会にメッセージをいただきましたので、ご紹介します。



北海道日中経済友好協会「友好会報」のご発行にあたりまして、中華人民共和国駐札幌総領事館を代表致しまして、心よりお祝い申し上げます。

北海道日中経済友好協会は1986年に創立されて以来、経済・貿易分野で様々なイベントを通じて中日両国の友好交流を促進し、両国各地方の友好関係に多大な貢献をしてこられました。皆様のご尽力に感謝と敬意を申し上げます。

中日両国は二千年以上友好交流の歴史があり、友好協力は両国関係の終始変わらぬ主流であります。中日友好の基盤は民間にあり、経済貿易交流は両国関係の大きな支えとなっております。今年には北海道・黒龍江省友好関係締結35周年であり、来年は中日両国が国交正常化50周年を迎えます。記念すべきこの節目をきっかけとして、北海道日中経済友好協会の皆様には引き続き両国の経済貿易交流を一層促進し、両国国民の相互理解と信頼をより高いレベルに引き上げ、子々孫々にわたる中日友好関係とアジアひいては世界の平和と繁栄に貢献していただくよう心より願う次第でございます。

結びに、北海道日中経済友好協会の皆様のご活躍を心から祈念申し上げ、私のメッセージとさせていただきます。

2021年4月30日

中華人民共和国駐札幌総領事

劉 亜明

### 歴代中国総領事

初代	陳 抗	(1980.06 ~ 1982.12)
2代	張 志民	(1985.02 ~ 1987.08)
3代	千 昌奎	(1987.08 ~ 1990.06)
4代	趙 鐘鑫	(1990.09 ~ 1994.04)
5代	吳 治安	(1994.08 ~ 1996.05)
6代	羅 田広	(1996.08 ~ 1998.04)
7代	王 泰平	(1998.08 ~ 1999.12)
8代	孫 平	(1999.12 ~ 2003.06)
9代	李 鉄民	(2003.07 ~ 2005.05)
10代	齊 江	(2005.06 ~ 2007.07)
11代	胡 勝才	(2007.08 ~ 2011.08)
12代	許 金平	(2011.09 ~ 2013.12)
13代	勝 安軍	(2014.01 ~ 2015.04)
14代	孫 振勇	(2015.05 ~ 2020.09)
15代	劉 亜明	(2020.11 ~)

(敬称略)

2020年1月に武漢市で封鎖が始まって以降、世界に蔓延した新型コロナウイルス。未だ日本から北京への直行便は再開されておらず、中国に入国するにはビザの取得に大変な苦労があることに加え、入国地での2週間の強制隔離に加え、北京ではさらに1週間の隔離が必要となっています。(4月末現在)

このように現在でも厳しい入国制限が課されているのですが、実のところ「入国後にはコロナ前と変わらない生活がある」そのような現状をお伝えしたいと思います。

コロナ前と変わらない生活を営む上で欠かせないのが、携帯アプリ「健康宝」による健康管理です。オフィスビルに入るにも、コンビニに入店するにも、タクシーに乗るにも、このアプリによる登録と証明が必要です。事あるごとに携帯を取り出し登録するのは煩雑以外の何物でもありません。しかし、これらの手続きが必要であるものの、人々は花を愛でるために公園に集まり、家族で商業施設を訪れ、夜は北京名物の羊のしゃぶしゃぶを味わいながら燕京ビールを飲む。と、まるっきりコロナ前と同様の生活を楽しんでいます。

余暇についてはさらに顕著です。今年の春節時期に、政府は北京市民に対して往来を控えるよう求めていましたが、その反動もあってか旅行需要は非常に旺盛です。中国の大手旅行会社によると、4月の清明節休暇中の旅行について、旅行者数はコロナ前の水準にまで回復。プライベートツアーの予約数はコロナ前の水準の260%



中国各地で札幌市のPR活動を行う小室所長

にまで増え、さらに1人あたりの旅行料金はコロナ前の水準を上回っているとのデータがあります。これらの旅行に対する高い関心に応えるべく、札幌市北京事務所は、中国政府機関等が主催した会合に参加するなどし、札幌北海道の広報活動を継続して展開しているところです。

このように中国国内では緩和されつつある行動制限も、日中間の往来についての厳しい状況は、残念ながら当分の間継続すると思われます。しかしながら、これまで育んできた友好関係が、この数年で途絶える訳もなく、この困難な時期に生きる我々こそが、この結びつきを時代に即した形で進化させていくべき存在であると信じています。両国民が想いを一つにして活動していけるよう、当事務所としても力を尽くしていきたいと考えております。引き続きご支援をよろしくお願いたします。

私達の住む北海道は、開拓使が設置された明治2年には6万人に満たなかったのですが、北海道庁が設置された明治19年に30万人になり、開道50年の大正7年には217万人まで増加しています。

この間、全国のほとんどの都府県から「開拓の夢を抱き」、「北辺の警護のため」、「飢饉や災害で全てを失い」、「宗教や思想上の想い」など様々な事由で北海道に移住してきました。当初の目的や思いは異なっても皆、鬱蒼と木々が生い茂る酷寒の地で、艱難辛苦を重ねこの地を開拓してきました。

2018（平成30）年、北海道は命名されてから150年を迎えました。艱難辛苦を乗り越え、現在の北海道を開拓された先人の足跡をたどり、私は「2018年・北海道命名150年『北加伊道60話』」を上梓しました。

本の表紙を何にしようと思案したのですが、当社（財界さっぽろ）が所蔵していた「北海道国郡全図」を採用しました。この図は北海道を命名した松浦武四郎が作成した地図で、北海道・樺太・千島列島が詳細に描かれています。現在の地図と違うのは、北から南を見て描いたもので、樺太島が北海道の下になっています。これからは、「北方が主役なのだ」という松浦武四郎の気概が感じられます。

「北海道国郡全図」は北海道と命名されて初めて武四郎が描いた図で、縦109cm、横92cmの大図。左上方に「寧静致遠」と記されています。

「寧静致遠」は、諸葛孔明が54歳で亡くなる年、まだ8歳の幼い息子に書き残した手紙に書かれていました。諸葛孔明は、後に蜀漢の初代皇帝となる劉備が、「三顧の礼」をもって軍師として迎えたことで有名です。

「寧静致遠」の解釈には次の様な説があります。

- ・「誠実で、なおこつこつと努力を続けないと、遠くにある目的に到達することはできない」
  - ・「心を安らかに静めれば遠くまで見据えることができる」
  - ・「丁寧に真心を尽くしていかないと遠大な事業を達成することはできない」
  - ・「安らかな心で誠実な努力を積み重ねなければ、遠くにある目的地には到達できない」
- また、原文の「淡泊明志 寧静致遠」から
- ・「私利私欲に溺れることなく淡泊でなければ、志を明らかにすることはできない。落ち着いてゆったりした気持ちでないと、遠大な境地に達することはできない」との解釈もあります。

中国の方と同じように、私達日本人も皆子供の頃から「ちゃんとやりなさい」「まじめにやりなさい」「きちんとつづけなさい」と、言われ続けていました。

新型コロナが世界中に蔓延し、私たちの心の中に一部冷静さが失われ、全てに早急（スピーディ）な解決を求めるようになっていないでしょうか。

AI、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、SNS、ニューノーマルが喧伝され、コッ

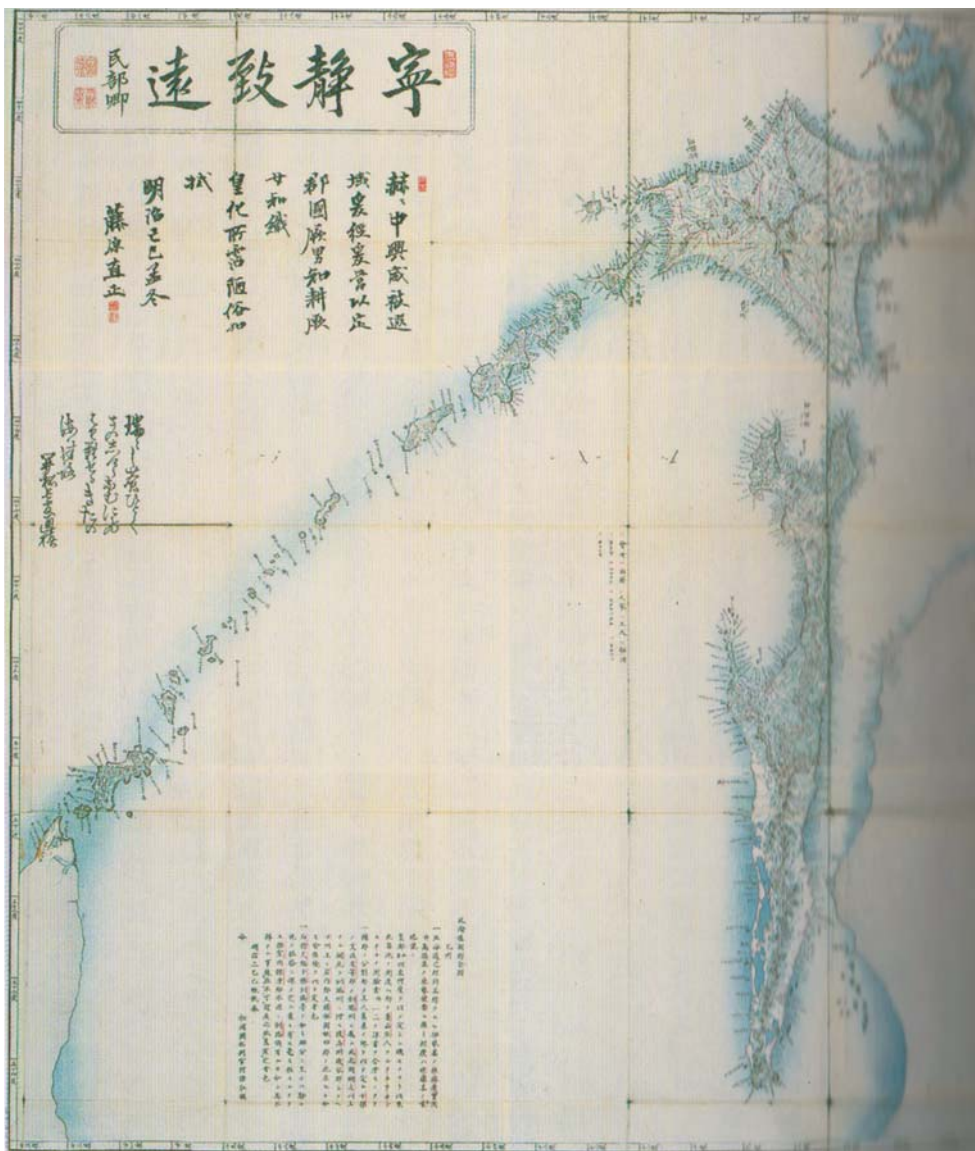
コツ続ける努力、誠実さ、安らかな心、丁寧な真心が脇に置かれ、遠くにある目的が分からなくなっているのではないかと危惧しています。

今、コロナ禍の中、「誠実で、なおコツコツと努力を続けた」飲食・観光・医療に携わる方々が塗炭の苦しみを味わっています。一方、大胆な金融緩和の下、高騰する株価や金融資産で富を築いている人たちもあり、富の偏在・二極化が進んでおります。この事態は異常です。最大の努力で事態を改善し、1800年続いた「寧静致遠」の教えが、今後の世の中でも引き続き同様なのだと理解されるようにしなければなりませんでしょう。

諸葛孔明は181年に生まれ、234年に54歳で亡くなっています。日本では米作が始まった弥生時代の後期、北海道では続縄文時代にあたります。今から1800年程も前の時代です。この間に文明は大きく変化し今に至っています。技術は急速に進化し、生活のあり様も激変しています。しかしながら、そこに生活している人々の心の持ち方や社会の一員としての在り方は変わっていないのではないのでしょうか。

地球温暖化による異常気象、森林伐採による自然破壊、食料や水資源の枯渇等々、コロナ禍が過ぎても人類を襲う脅威は今後も続きましよう。今こそ「寧静致遠」の意味するところを

改めて思い起こす必要があるのではないかと思っております。



## 令和2年度 中国私費留学生支援奨学金授与事業

令和2年度も公益財団法人似鳥国際奨学財団から助成金200万円の支給を受け、全額を給付型奨学金支給事業の原資として活用することに決定。対象は北海道内で学ぶ中国人の私費留学生で、公募により選考した5人に、1人につき40万円（前期20万円、後記20万円）の奨学金を支給しました。応募者は43人。

対象大学

北海道大学／北海道教育大学／札幌国際大学／小樽商科大学／札幌学院大学／  
北海学園大学／北海道科学大学／酪農学園大学／苫小牧駒澤大学／北海道文教大学

令和2年度奨学生

魏 雯君（江蘇省）北海道大学大学院  
帕麗扎 甫爾開堤（新疆ウイグル自治区）北海道教育大学  
馮 光龍（河南省）北海道大学大学院  
李 美雪（福建省）北海道大学大学院  
陳 英欣（北京市）北海道教育大学

### 奨学生事業の歩み

北海道日中経済友好協会が行っている、中国人の私費留学生への奨学金による支援事業は、平成6年（1994年）から始まりました。当時、中国人学生が海外で学ぶにはまだ国費留学が主流でしたが、その枠は狭く厳しいことから、徐々に私費での留学が増えてきたころでした。

そこで当協会としては、中国との経済交流を活発化させる一方で、交流を息長く続けていくうえで必要不可欠な人材育成に着目。留学先に北海道を選んでくれた中国人学生を支援する奨学生事業を開始しました。

開始当初、支援の枠は年間2人でしたが、奨学金は返済の必要がない「給付型」とし、アルバイトの時間を減らして勉学に打ち込み、さらには日本、北海道を理解してもらう時間を増やすなど、生活にゆとりをもってもらうことが大きな狙いでした。

平成23年（2011年）からは公益財団法人似鳥国際奨学財団の助成を受け、支給する人数を増やして実施してきました。同財団からの助成は令和2年まで10年間続けていただき、当協会の奨学生事業を発展させるうえで、大きな支えとなったことは言うまでもありません。

開始から27年。令和2年度までに奨学金を受けた中国人留学生は117人になりました。最初のころに奨学金を受けた留学生はすでに40～50歳代となり、社会の中核として活躍されています。北海道で学んだ経験と培った人脈を、日々の社会活動の中で活かして下さっていることと確信しております。

当協会としては、奨学生事業を引き続き実施していきますので、様々な形でご支援いただけますよう、お願いいたします。



## 2020年度 奨学生レポート

# さらなる飛躍 北海道から夢に向かって



魏 雯 君

江蘇省出身

北海道大学大学院

北海道日中経済友好協会2020年度奨学生に採用していただいた魏雯君と申します。北海道大学大学院文学部博士後期課程の2年生です。奨学金を給付されて以降、大学院で授業を受けながらインタビュー調査と学会発表を行いました。

私は歴史博物館常設展示の変遷及び課題との題目で研究をしています。2020年は新型コロナウイルス感染拡大が一時期に比べると落ち着いた夏に、国立歴史民俗博物館、三重県総合博物館と山梨県立博物館に訪問し、3館の研究員にインタビュー調査を行いました。冬に入ると、大学に新型コロナウイルス陽性者が発生しオンライン授業が中心になったため、オンライン研究セミナーに参加したり文献資料を整理したりする形で、自宅で研究活動を続けています。そして2021年1月にオンライン開催の全日本博物館学会第46回研究大会で研究内容を発表しました。

2020年は道外での調査活動でアルバイトにかけられる時間がかかなり少なくなりましたが、奨学金のおかげさまで、経済面の不安と心配が軽減され本当に感謝しております。ありがとうございます。

現在は新型コロナウイルス感染症の拡大で大学

がまだ通常の対面授業に戻れませんが、2021年も前向きに頑張りたいと思います。今後とも引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



李 美 雪

福建省出身

北海道大学大学院

光陰矢の如し、2020年8月に北海道日中経済友好協会の奨学生になってから、もう半年経ちました。コロナがまだ続けていた間にも、充実した留学生活を送りました。これから、半年間に頑張ったことを報告させていただきます。

まず、昔のアルバイト先が新型コロナウイルスの影響で閉店してしまいましたが、奨学金のおかげで、生活に経済的な援助をいただきました。しかし、自分が日本の社会をもっと経験したいので、新しいアルバイトを探しました。同じサービス業であっても、今回の仕事内容はドラッグストアと違って、日本人とのコミュニケーションのチャンスが増えたため、コミュニケーション能力を向上させると考えました。また、修士1年の学業負担が大きいので、アルバイトの頻度が去年よりずいぶん減りました。アルバイトを留学生活中の「調味料」だと扱いました。

その他、学習的にもちゃんと頑張りました。修

士1年の中に、修士論文以外の単位を取得しました。また、研究の面については、続けて「戦後日本における女性自営業主の従業と生活」という研究テーマに取り組んでいます。自分の研究テーマが、経済史で新たな分野だと位置づけるのがわかっていますので、一次史料を積極的に探したり、他の分野と関連をつけたりするなど、新たな分野の進め方と研究方法を模索していました。

また、日中貿易関係などの仕事に従事したいという目標もずっと覚えていて、忙しいでしたが、就職活動もはじめました。積極的に企業の説明会を聞いたり、インターンシップに参加したり、自己分析と業界・業種分析を行ったりすることなど、日本での就職活動をスムーズに進めるように努力しています。

2020年から新型コロナウイルスの影響で、家族が集まるのが無理になってしまったり、旅行もできなくなったり、学校に行けなくなったりするなど、留学生活もずいぶん変わりました。もちろん、落ち込んだ時が前より多くなりましたが、奨学金をいただいたことを思い出したら「やる気を出さない」って自分に戒告します。というのは、この奨学金が自分にとって、重要な存在であります。最後になりましたが、改めて北海道日中経済友好協会に感謝の気持ちを申し上げたいと思います。これからも、奨学生として、日本と中国の懸け橋になれるように一生懸命頑張りたいと思います。



## 帕麗扎 甫爾開堤

新疆ウイグル自治区出身

北海道教育大学

私は北海道教育大学教育心理学2年生のパリザ・フルカトです。今年の4月から3年生になり、学校での実習活動が始まります。私は中国の新疆ウイグル自治区から日本に来て留学しています。今年で日本に来て4年目になります。

2020年は新型コロナウイルスの影響で、学校の授業はオンライン授業になり、アルバイトも出来なくなり、留学生活が難しくなっていたが、北海道日中経済友好協会の奨学金をもらうことができ、経済面で心配なく、安心して学校の勉強を取り込むことができました。大学の授業に関してはすべてを出席できており、単位は前期で32単位取得済み、後期については更に24単位取得できる見込みです。家庭の状況について、新型コロナウイルスの影響で親の給料が減っていて、仕送りも難しい状況になっています。今年からユニクロ札幌エスタ店でのアルバイトをできるようになり、今は少しでも生活費を自分で稼ぐようになっています。もちろん、学校での学習を第一に考えて学生生活を送っています。

これからも、北海道日中経済友好協会奨学金への感謝の気持ちを忘れず、将来は日本や中国で活用できるような人材になるため頑張っていきたいです。

よろしく願いいたします。



## 馮 光 龍

河南省出身

北海道大学大学院

現在、北海道大学工学院の人間機械システムデザイン専攻に在籍している修士として、人間工学につき研究しております。2019年の10月に北海道大学に入学し、今修士2年生になります。修了見込みは今年の9月でございます。北海道日中経済友好協会様が奨学金を頂き、こころより感謝申し上げます。まずは、現在までの状況を報告させていただきます。

北海道日中経済友好協会様が奨学金を頂き、私にとって光栄の至りでございます。奨学金より留学生として認められるということは本当に意義のあることでございます。日本へ留学してから様々なことが起こってございました。ご協会が頂いた温もりは自分の心を暖めました。

昨年の8月から、ちゃんと授業を完成しました。それからの夏休みの期間で、図書館で文献と論文資料を利用し、卒業論文を考えておりました。その同時に、研究室の先輩に聞き、先輩からの意見とアドバイスを貰いました。私は学部生の際、電子、機械システムデザイン学科につき勉強しておりました。両親は農業をしていることを切っ掛けとして、農業機械の機械化と自動化を促進するために、自分は卒業論文を農業機械の自動化と機械化につき書かれました。しかし、単なる農業機械ではなく、私は人間と機械の両方間の関係を研究したいのでございます。そのため、私は大阪大学での熱流力学の研究を辞めて、再び北海道大学を

目指して努力しておりました。そのような考えこそ、現在私の研究課題は「皮質骨の微細構造と骨ミネラル密度が機械的特性に及ぼす影響」でございます。

その原因を言えば、私は新たな医療機器開発のために、少しでも自分の貢献をさせて頂きたいと思っております。このような考えを持って、先生に相談しておりました。先生は自分の考えにつき賛成を頂きました。ですから、2019年の10月から、私は卒業論文のために、様々な論文と資料を読みました。コロナ禍のため、研究室に行けません。実験もなかなか捗々しくありません。それにしても、私は先輩や先生にアドバイスと意見を聞いて、いつも熱心な対応を頂きます。

卒業論文の以外、私は就職活動を積極的に進めています。まずは、日本語でございます。私はSGUプログラムで、つまり英語プログラムで北海道大学に入学しました。自分は入学する前に、日本語能力試験のN1レベルがもう合格しておりました。それにしても、自分はとても不安でございます。従って、私は北海道大学が外国人向けの日本語クラスをちゃんと参加しておりました。専門授業と卒業論文の準備と日本語の授業と就職活動と様々なことが段々届いてきます。少し大変だと思っております。

日本での就職のために、ビジネス日本語も不可欠でございます。北海道大学の人材育成部を通して、BJT日本語（ビジネス日本語）につきの資料と案内を貰いました。私は現在も独学で2月のBJT日本語（ビジネス日本語）に勉強しております。留学生ですが、日本語がいくら勉強しても足りないと思っております。しかし、コロナ禍で、自分

も留学生として、日本での就職活動につき強い不安を身近に感じています。

日本での就職活動を報告させていただきます。私は機械系の修士として、やはり機械系の技術職につき興味があります。自分の就活の軸は機械、人間社会、情報技術の三つの要点でございます。希望業界は電気機械会社、機械会社、建築会社の機械技術職と生産技術職でございます。例えば、三菱電機株式会社、クボタ株式会社、ダイフク株式会社のようなメーカー業界の会社、それ以外、自分は清水建設のような建築会社の機械電気技術職に対して強い興味を抱いています。私は2021年の9月に修了見込みですので、就職活動の時間が本当に緊張しております。昨年11月から、私は就職活動の情報を収集するし、インターンシップに応募するし、会社の説明会とセミナーも参加します。コロナ禍で、イベントはほとんど全部Webで行われています。

北海道日中経済友好協会様は奨学金を頂くのは

自分にとって莫大な光栄でございます。奨学金は大切にしておりますので、私は週末の時に札幌市北区北22条のセブンイレブンで続いてアルバイトをしております。奨学金は勉強のためにしか使いません。生活費は両親に頼らず、自分でちゃんと責任を取らなければなりません。農業をしている両親のストレスを少しでも解消するために、自分は精一杯で頑張らなければなりません。

最後、北海道日中経済友好協会様に心より感謝申し上げます。この温もりと光栄を自分の心底大切にしていきます。今年度の就職活動はもうすぐ本格的に始まります。私も全力で頑張っていきます。どうぞよろしく願い申し上げます。

い、教え方もやり方も大分変化しています。日本と中国の歴史の中で、日本人と中国人との関係も変化しています。ここに来てもうすぐ2年。日本語を勉強するためにアルバイトに励んでいます。

これからも、合同公演のように、日本と中国がつながり、お互いに理解できるように頑張ります。

## 黒龍江省との友好提携35周年

北海道と中国黒龍江省が友好提携の調印を行ったのが、1986年（昭和61）6月13日。今年には提携35周年を迎えます。

この間、北海道日中経済協会でも黒龍江省とは様々な形で交流を行ってきました。引き続き、北海道と黒龍江省との経済交流を発展させるための一翼を担えることを願っています。

今年の提携35周年を会員みなさんと一緒にお祝いしましょう。